

このコーナーでは、町にゆかりのある歴史人物とその結び付きなどをシリーズで紹介していきます。執筆者は町史編さん委員の佐藤仁志さん（豊間根・六八）です。

自由民権運動は、明治初期、憲法制定・国会開設・地租軽減などを要求して起きた運動で、明治七年全国的に板垣退助らの民選議院設立の運動が展開され、各地に政治結社が設立された。

在京中の鈴木舎定は福沢諭吉らと『東京新報』を編集、自由民権運動に共鳴し、

東閉伊郡	明12. 3. 1	千	徳	村	大	森	與	兵衛
東閉伊郡	明12. 3. 1	山	田	村	貫	洞	定	治郎
東閉伊郡	明12. 3. 1	(宮古)		町)	桂		新	兵衛

## 自由民権運動の先覚者

### 貫洞定次郎

板垣退助らと接触。帰郷した舎定は『求我社』を足場に自由民権運動に和作と交流、自由民権運動について大きな影響を受けた。

権運動を推進、岩手を代表し対外的に活躍、板垣首班の自由党を結成した。山田においては、明治のはじめ、江戸で数学塾を開いていた阿部和作が帰郷し、彼の人格と学識を慕い若者が訪ねた。飯岡生まれの貫洞定次郎（治）郎（以下貫洞定次郎）は早い機会に和作に接触。盛岡に出、鈴木舎

盛岡で開催された『求我社』主催の自由民権大演説会で弁士として国会開設を訴え多くの共感を得た。山田において、明治十五年頃、和作は『一進社』を創立、多くの若者を指導していたが、過度の活動から健康を害し、明治十六年六月四十九歳で病死。県会で活躍していた定次郎も同年九月三十二歳の若さで病死した。和作の死後、舎定の求我社と呼びし『一進社』を母体として、



龍昌寺にある貫洞定次郎の墓碑。「治」次郎のどちらの字も刻まれています（右）。「岩手県議会100年の歩み」の名簿より抜粋。明治12年に東閉伊郡選挙区から3人が当選しています（上）

明治十二年、二十八歳の定次郎は府県会規則時代の県会議員（被選挙権は二十五歳以上の男子、三年以上その地に居住、地租十円以上納入の者）として東閉伊郡選挙区の議員として、当選、自由民権運動に取り組み、一貫して自由民権派の議員として地方振興、三陸沿岸の水産業振興に尽力した。同十三年定次郎は、

町長）らが中心となり、同志を集い自由民権運動を推進した。明治二十三年七月第一回衆議院議員（有権者は国税十五円以上納入、二十五歳以上の男子）選挙が行われた。本県は五区、定員五名。第二区（東・中・北閉伊郡、南・北九戸郡）から小田為綱（九戸）、中原貞七（盛岡）、伊東圭介（盛岡）が立候補。弁護士、求我社系の自由党员で舎定らと自由民権運動を推進してきた伊東が多く、支持を得当選した。

## 町長室から

七月七日から五日間、今年国家公務員として、農林水産省、国土交通省、環境省に採用された三名の研修が本町で行われました。研修生受け入れの打診があったので、この機会に将来の行政の中核を担うであろう人たちに地方の実情を見てほしかったし、わたしたちの生の声も聞いていただきたいとの思いがありました。研修生は過密スケジュールをもとめ、座学から現場体験、水産関係者との懇談会など、精神的にこなしました。特に若手漁業者との懇談会では、後継者難、漁業系産業廃棄物処理対策、不漁魚価安、等々の問題提起を受け、直接担当する部門ではないにしても地方が抱える問題の深さは理解できたのではないかと思います。

多くの人との交流がありました。ささやかな試みでしたが彼らが山田町のファンとしてこれから応援いただけることを期待します。

山田町長 沼崎喜一